

ツケナ 二、三二四・二
サトイモ 二、四〇四・一
レンコン 六・三
ネギ 七、四三・二
タマネギ 七、四一・七
キャベジ 二一・六

一、三三、六〇一
一、二九、八五三
四、〇〇五
四、九八〇
四、〇〇八
五、一五三

ラクカセイ 三三六
計 九、三二八
で前年に比すれば作付反別に於て百十二町一反(零割二分二厘) 價額に於て三十三萬九千六百八十五圓(零割六分七厘)を 何れも増加した。

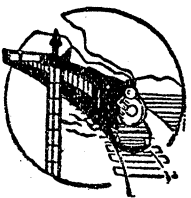
四〇

統計主任者異動

(上は新任括弧内は舊)

昭和十四年四月十四日 那珂郡野口村 昭 正雄 (皆川善次平)
全 四月十六日 西茨城郡穴戸町 友部 勝雄 (嵐 一郎)
全 四月十七日 多賀郡多賀町 長山 惠 (國分、河原子、鮎川併合) 大川 要市 (ニヨリ新任) 海野 秀 (ニヨリ新任)
全 一月二十一日 那珂郡檜澤村 長岡 哲也 (小室 榮)

全 一月三十日 東茨城郡小松村 綿引 謹青 (岡部 保彦) 貝塚 喜一 (羽生 宗雄)
全 全日 蓮田 捨藏 東茨城郡澤山村 全 二月二十四日 北相馬郡安谷町 (小林 克) 飯塚 丑松 (下村光三郎)
全 一月三十日 東茨城郡河和田村 高倉 重義 (丸山五次郎) 全 二月十日 新治郡高濱町 (丸山五次郎) 和田吉五郎 (小松崎達士)
全 四月十一日 那珂郡平磯町 磯崎 健造 (岡部 勝一) 井上廣之介 (大内 熊吉) 全 三月二十八日 久慈郡坂本村 (久慈郡天下野村) 行方郡立花村 全 二月二十一日 久慈郡天下野村 (幡谷 甚平) 木下 清喜 (金澤 政志) 全 三月五日 新治郡田余村 (小川 得雄) 橋本誠之助 (田口 正作)



各地統計雑信

東茨城郡支部

久治、(豊郷)錦織要藏、(豊津)野口雄亮、(鹿島)根本關之助、(高松)木瀧徳三郎、(息酒)大塚廣一、(輕野)保立松太郎、(若松)菅野藤助、(波崎)石川武治

各郡支部總會

表彰傳達式も舉行

各郡支部の總會概況は大休次の通りであつた。

鹿島郡支部

四月一日波崎町役場に開催、當日の出席者左の通り
(夏海)田口豊之介、(大谷)豊田保行、(巴)重藤正、(諏訪)酒井守衛、(銚田)竹内慶治 (上島)中根忠、(白鳥)菅谷保一、(大同)須賀田彦二、(中野)小澤正平、(波野)大川佐

昭和十四年度本縣統計協會支部總會は四月一日開催の鹿島郡支部を皮切に五月二日の筑波郡を殿として各支部共盛會裡に終了したが、本部から大月副會長及び支部擔任委員が臨席、去る二月十一日紀元の佳節に統計功勞者として表彰せられた統計主任及び全調査員三十二氏に對する表彰狀の傳達式を舉行した後縣提出の研究事項に就き種々討議を重ね總會をして意義あらしめた

四月十三日東茨城郡町村長會支部樓上に開催、當日の出席者左の如し。

横須賀助役(上大野村)、平戸書記(下大野村)、飯島書記(稻荷村)、飛田書記(大場村)、清水書記(酒門村)、飛田書記(石崎村)、皆川書記(吉田村)、町井書記(綠岡村)、石川助役(河和田村)、寺山書記(長岡村)、栗原書記(上野合村)、郡司書記(白河村)、菅井書記(小川町)、大貫書記(竹原村) 加納書記(堅倉村)、大島書記(鯉淵村)、木村書記(中妻村)、鈴木書記(渡里村)、安島書記(飯倉村)、菌部書記(山根村)、大越書記(石塚町)、綿引書記(小松村)、鯉淵書記(西郷村)、宇野書記(岩船村)、蓮田書記(澤山村)、河上書記(磯濱町)、佐藤書記(大貫町)、支部常務幹事江橋長次郎

西茨城郡支部

四月十四日笠間町役場樓上に開催、傳達式後豫算を満場一致で可決、次で支部役員改選の結果

△支部長小島笠間町長(留任)、△副支部長結解笠間町助役(留任)、△幹事成田笠間町書記(留任)、友部栄戸町助役、細谷北那珂村助役
以上諸氏に決定した。當日の出席者は左の通り。

支部長小島笠間町長、副支部長結解笠間町助役、成田書記(笠間)、友部助役(栄戸) 美留町書記(岩間)、倉品書記(岩瀬)、打越書記(南川根)、小澤常設委員(北川根)、高野書記(大原)、高野書記(大池田)、山口書記(七會)、高野書記(北山内)、笹島書記(南山内)、羽方書記(西山内)、宮崎書記(東那珂)、細谷助役(北那珂)、被表彰者瀨尾調査員(東那珂村)

多賀郡支部

四月十八日多賀郡華川村役場會議室

四月二十一日新治郡農會樓上に開催
出席者左の如し

新治郡支部

松延書記(真鍋町)、松葉書記(下大津村)、松澤書記(美並村)、關口書記(牛渡村)、濱野書記(志土庫村)、和田書記(高濱町)、橋本書記(田余村)、大槻書記(兩部村)、鈴木書記(五會村)、市塚書記(林村)、飯村書記(懸瀬村)、江畑書記(柿岡町)、高橋書記(小幡村)、金子書記(志筑村)、石塚書記(新治村)、高平書記(七會村)、來栖書記(藤澤村)、町田書記(斗利田村)、藤村書記(山ノ莊村)、豊島書記(築村)、狩谷書記(九重村)、大沼書記(栗原村)、宮本書記(東村)、内田書記(土浦町)、岩田書記(三村)

眞壁郡支部

四月二十四日下妻町役場樓上に開催
出席者左の如し

澤部支部長、門井助役、小澤書記(下妻町) 横塚書記(關本町)、勝沼書記(黒子村)、中山書記(上野村)、齋藤村長、杉山書記(河

に開催、昭和十三年度決算、全十四年度豫算の議決を爲し支部長の改選を行ひ前支部長官田厚氏再選を満場一致決定した。出席者左の如し。

長山書記(多賀町)、田村書記(坂上村)、鈴木書記(助川町)、戸祭書記(日立町)、根本書記(日高村)、吉田書記(豊浦町)、椎名書記(楢形村)、根本書記(黒前村)、沼田書記(高萩町)、樋口書記(松岡町)、豊田書記(高岡村)、瀧書記(南中郷村)、長瀬書記(磯原町)、宇佐美書記(華川村)、中野書記(關南村)、木瀧書記(平湯町)、水野書記(關本村)

行方郡支部

四月十九、二十日兩日玉造町役場に開催、出席者左の如し。

羽生書記(麻生町)、森内書記(香澄村)、鬼澤書記(八代村)、石津書記(潮來町)、大竹書記(津知村)、小林書記(延方村)、宮内書記(大生原村)、萩原書記(太田村)、根本書記(大和村)、宮本書記(津澄村)、小貫書記(武田村)、小室書記(秋津村)、平間書記

内村)、山口書記(大寶村)、宮田書記(川西村)、長谷川書記(上妻村)、小島書記(中村)、濱野書記(大田村)、海老原書記(小栗村)、奥田書記(河間村)、篠崎書記(養蠶村)、田沼書記(五所)、渡邊書記(嘉田生崎村)、小島書記(谷貝村)、戸頃書記(古里村)、深谷書記(大岡村)、渡邊書記(村田村)、入江書記(樺穂村)、安田書記(雨引村)、武井書記(長讚村)、酒寄書記(紫尾村) 酒寄村長、中村書記(大村)、鹿村書記(眞壁町)、荒井村長(騰波ノ江村)、被表彰者眞田書記(鳥羽村)、小波寅三(河内村調査員)、上河原喜與作(中村調査員)

結城郡支部

四月二十五日宗道村自治館に開催、當日出席者左の通り。

副支部長長瀬宗道村長、海老原書記(結城) 宮田書記(絹川)、大島書記(上山川)、福田書記(江川)、五十幡書記(山川)、鈴木書記(名崎)、小林書記(岡田)、小川書記(飯沼)、中島書記(豊岡)、飯村書記(西豊田)、本橋書記(豊加美)、松崎書記(總上)、青木書記(先道)、小島書記(蠶飼)、渡邊書記

(現原村)、貝塚書記(立花村)、佐竹書記(玉造町)、高安書記(手賀村)、阿部書記(玉川村)、河須崎書記(行方村)、津野助役(小高村)

沼敷郡支部

四月二十日蠶業取締所江戸崎支所會議室に開催、出席者左の如し。

石川書記(江戸崎町)、山口書記(君賀村) 栗山書記(沼里村)、塚本助役、飯塚書記(安中村)、成島書記(木原村)、大津書記(君原村)、宮崎書記(舟島村)、松浦書記(阿見村)、福山書記(朝日村)、岡野書記(岡田村)、野口村長、矢口書記(莖崎村)、杉浦助役、久地岡書記(牛久村)、鴻巣支部長、松尾書記(馴柴村)、岡野書記(長戸村) 大塚書記(根本村)、油原書記(柴崎村)、福田書記(高田村)、大木書記(大須賀村)、宮本書記(浮島村)、海老原書記(龍ヶ崎町) 内藤書記(大宮村)、茨城書記(生板村) 雜賀書記(長牟村) 羽生村長、石田書記(本新島村)、被表彰者松浦永藏(柴崎村調査員) 池邊喜三郎(牛久村調査員)

記(豊田)、佐藤書記(玉)、山田書記(石下) 吉川書記(三妻)

北相馬郡支部

四月二十七日取手町自治館に開催、出席者左の通り

支部長新井内守谷村長、大瀧書記(菅生) 兼子書記(内守谷)、中村書記(小絹)、大串助役(大井澤)、貝塚書記(大野)、渡邊書記(高野)、野口書記(高井)、沼尻書記(山王) 小笠原書記(寺原)、市村書記(取手)、寺田書記(井野)、塚本書記(小文間)、中山書記(六郷)、色川書記(相馬)、飯岡助役(高須) 下妻書記(川原代)、篠崎書記(文)、石塚書記(布川)、長島書記(文間)、齋藤書記(東文間)、長塚書記(稻戸井)、被表彰者大浦調査員(稻戸井)

猿島郡支部

四月二十六日猿島郡農會樓上で總會を開催したが、出席者は左の通りだつた。

森書記(古河町)、小野助役、小竹書記(新

郷村、青木村長、長濱書記(勝鹿村)、諏訪村長、山中書記(岡郷村)、江原村長、江原書記(櫻井村)、宇都木書記(香取村)、小林助役、小野寺書記(五霞村)、大賀書記(靜村)、麻生村長、加藤書記(長田村)、田邊書

記(八俣、卯木村長、赤岩書記(幸島村)、野村村長、野仲書記(猿島村)、田村書記(森戸村)、木村村長、鶴見書記(生子菅村)、栗原書記(逆井山村)、花島書記(七重村)、立入書記(香掛村)、岡田書記(飯島村)、羽富

書記(神大實村)、南書記(七郷村)、野口書記(中川村)、遠藤町長、田邊書記、佐野書記(境町)、後藤書記(長須村)

統計調査員異動

(上は新任、括弧内は舊)

昭和十四年四月十七日 新治郡瓦會村	鈴木 三郎	(柴田 誠太)	全 一月二十八日	猿島郡弓馬田村
稻見 惠一	大和田金一郎	(大高貢太郎)	小林忠三郎	(小林 繁)
全 四月十日	全 全日	新治郡土浦町	全 二月八日	猿島郡逆井山村
四月十日	渡邊 善藏	(荒木 米吉)	野仲 晃	(和田 義雄)
四月十日	古神 一男	久慈郡小里村	全 一月十三日	猿島郡櫻井村
四月十三日	豊田 義孝	(佐藤 長次)	梅田仙次郎	(梅田光四郎)
四月十三日	全 四月五日	(高倉 節治)	全 三月七日	筑波郡小田村
青柳 龜吉	全 四月五日	新治郡眞鍋町	中根 翠	(相 信好)
全 四月七日	塚本 實	(塚本 兼吉)	全 三月三十一日	那珂郡宮谷村
町幸市郎	全 四月三日	東茨城郡小松村	石川 一郎	(橋本 芳藏)
(仁平貞市郎)	寺門 英男	(増 員)	全 三月二日	結城郡大形村
小松崎嘉範	全 四月九日	(那珂郡佐野村)	猪瀬 左門	(松田安太郎)
石崎 守目	平野 太一	(平野廣之介)	全 三月二日	新治郡小幡村
全 四月十四日	鈴木 廣吉	(鈴木春之介)	上田 庄平	(助川 貢)
鈴木 新八	全 四月十一日	那珂郡芳野村	藤田 茂雄	(藤田 進)
全 四月十七日	大友 誠	(小泉 信)	全 四月十日	久慈郡黒澤村
飯塚 正男	古橋 豊重	(叶野 登代)	全 四月十日	(益子 勝)
全 四月十一日	多賀郡高萩町	久慈郡天下野村	折本 喜一	(行方郡廣方村)
櫻村 清	全 二月二十一日	(茅根常之介)	全 三月十七日	(川井 龍)
	茅根 貫一		齊藤 昇	新治郡佐賀村
				(折本 茂光)
				那珂郡宮谷村
				(梅山主計男)



戦時農業体制

鹿島郡白鳥村

飯岡對馬

事變三年長期建設に對處すべき我農林政策は劈頭有馬農相の辭任によつてはからずも中心勢力を失ふかに見えたが東亞新秩序の建設はむしろ今日以後に課せられた問題である。従つて我が國策が確乎たる盤石の上にある限り農林政策上にも格別の變化は認められまいとする見方は妥當であらう。この意味で有馬農相に

よつて樹立された農業長期建設方策としての農業計畫生産方針は引續き十四年度に於て農業の活動の指標として續行されてゆくことにならう。即ちこれが運営の中樞神經たる臨時農村對策部並に細胞組織たる農林計畫委員會の官制もそれ〴〵公布を見、其外廓運動たる農業報國聯盟も既に華々しき進展を見たのであるがこれが細部の調整、機構の整備はむしろ十四年以後になされねばならぬものである。過般の農林計畫委員會第一回總會に於ても各委員より希望意見の提出もあつた如く、計畫遂行に必要な諸般の施設調査はもとより生産擴充と物資節約の兩面より必然的に導かれる相剋摩擦に關してはその相互調整が重大要件となつ

てくるのである。

勞力不足は農業生産の一大危機であるが、現下の農村に於ける思想問題等を考察する時、従來の如き隣保共助や農村醇風美俗一点張りの防壁ではよく銃後保全の完璧を期し得べくもなく、形の上では十三年の延長にすぎない十四年度の農業問題も質的には一段と飛躍し困難の度を加へることを想ふに難くはない。表面の華やかさはないが流水の大地に浸透してゆくが如き執拗性をもつておしよせてくる等の問題に對してこれをよく切抜けてゆくがためには從來の如き彌縫策糊塗手段は許されぬ、古い生産關係の桎梏に苦しむ日本農業をして眞に東亞建設の盟主たるに恥しからぬものとするためには唯一

つ日本農業を圍繞する封建的經濟諸條件から解放すべき根本的革新政策の樹立を必要とするのではあるまいか。

夫送りて

東茨城郡堅倉村

井坂夢悠

——妻の唄へる——
簞笥の底の軍服を出してあなたに着せる時
見とがめられた目の涙
強い香りの樟腦が
眼にしみたのよと笑つたが
女々しい心で泣くぢやない
國のお役に立つ御身の
榮えと誇りにうれし泣き
祖父さまの送りもの
傳家の寶刀業物で
蔣介石の素つ首を
あなたがおはねるそれまでは
たとひ五年が十年も
せめて女の細腕に
坊やも泣かさず育てます
たんぽも荒さず作ります



短歌

~~~~~

丹 四郎選

『事變の歌』『春雜詠』

(入賞作ナシ)

稲敷郡牛板村 關野 貴

ふる里の空遠みかも野に伏してこの文書くと弟の便り

吾が友の英靈迎ふ村驛の弔旗靜かにたるゝ夕暮

北相馬郡小文間村 生井 勇

事も無げに征きにし友の口唇に固き覺悟のむすればれありき

新治郡藤澤村 愛村 耕夫

漢口を去ること八十軒にして微傷だもせずとたより届きぬ

針の秀の未だ出ですして山松の芽のやはらかに伸びのよろし

き

新治郡高濱町 木村 熊吉

風邪に寝て十日こもれば甘諸床の新芽は赤くつきぬけにけり

やゝ伸びし甘諸の新芽のほの匂ふ眞晝を雨の煙りて止まず

水戸市袴塚町 大高 靜香

春空の光りあまねし山々の目に惱ましき若葉の光

行方郡延方村 黒須 惠三郎

春雨に記念のアルバム開きつゝ出征當時を思ひ出しける

行方郡武田村 境 勇

戦地より長子の寫眞届きけり肩の星數増し居たりけり

新治郡高濱町 木村 筑峰

飛行場近き麥畑に影殘し若鷺乗せて練習機飛ぶ

☆ニエトス映画より

四 郎

腹這へる馬を枕に假寝する兵の顎髭いたく伸びたり

ひたすらに城壁攀づる兵の中背に負ふ日章旗が目に染みにけり

次回題 『事變の歌』『夏雜詠』

稲敷郡君賀村 小松澤 霞翠

街の灯が遠くまたゝく朧かな

新治郡瓦會村 野村 俊夫

子供等の顔の喜色や麥の笛

筑波郡久賀村 幸田 芳春

歩む犢寝てゐる牛や春の風

新治郡藤澤村 吉沼 愛村

夏帽の荷が着きにけり夕燕

行方郡武田村 境 谿水

蝶舞ふや畑の菜の花いま盛り

新治郡高濱町 木村 筑峰

耕人に糞を落しぬ揚雲雀

同 木村 桑柏

耕人に機影大きく過ぎにけり

行方郡延方村 黒須 一雅

春曉の海に散らばる白帆かな



『春季雜詠』

前田 猶 春選

那珂郡大宮町 駒田 義人

耕牛の遅々たる歩み日の永き

同 同人

山の井に浮く鍋蓋や鳴く蛙

水戸市袴塚 大高 靜香

雨やみて蛙か鳴くや夕月夜

北相馬郡小文間村 生井 勇

月澄むや湖水にゆれる花の影

行方郡武田村 鳥次 ゆた香

訪へば松の花散る歩廊かな

北相馬郡文間村 大野 松雨

山の間に苗代田あり藁家あり

秀 達

賞 (宇都宮行) 筑波郡久賀村上萱場 關根 玄月  
 よく眠る隣りの客や明け易き  
 憂々と馬蹄過ぎゆく櫻散る  
 江にそゞく棚田の水も温みけり

次回俳句募集  
 締切 八月五日嚴守  
 秀逸 粗賞を呈す  
 題 炎景風景雜



柳川

『農村風景』

○ 那珂郡柳河村 青柳 春男  
 草餅を頬ばる子等のすこやかさ

山中 緋郎選

○ 求人のドラへ減つてく村となり  
 ○ 村道の修理へ村の手が揃ひ  
 ○ モンペの娘さて百姓を苦勞がり  
 ○ 開墾の畑地糞餉のうまさなり  
 ○ 立話だけで別れる農繁期  
 ○ 畑打ちの終へて夜なべの灯に座り  
 ○ サイレンに掛りもなく畑仕事

次號課題 『旗』  
 締切 七月一日  
 宛名 茨城縣統計協會

○ 新治郡高濱町 木村 筑峰  
 ○ 行方郡武田村 境 谿水  
 ○ 新治郡高濱町 木村 久萬  
 ○ 行方郡延方村 黒須 一雅  
 ○ 東茨城郡渡里村 小林 新人  
 ○ 水戸市 大高 靜香  
 ○ 那珂郡中野村 川 又 靜一

茨城統計と 廣告の効果

『茨城統計』は縣下三百七十八ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團體、會社工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

◆本誌の廣告料金は左の通りです  
 特別(一頁(表紙表裏)) 金拾五圓  
 普通(半頁(同)) 金八圓  
 普通(半頁) 金四圓  
 普通(四分ノ一) 金貳圓

▼同一廣告を引續き二回以上るときは一割五分、五回以上るときは二割の割引をします。  
 ▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けまます  
 ▼廣告料は前納に願ひまます。

茨城縣廳内  
 茨城縣統計協會

編輯後記

先づ前號が思はぬ手違ひから發行が遅れ讀者諸賢に御迷惑をおかけした事を編輯者として御詫び申し上げます。之も非常時下の一出來事としてしまへばそれ迄ですが、編輯を擔任する者としては理由は兎に角責任を痛感する次第です。

☆ 本誌には本年八月一日を期して施行される臨時國勢調査の要綱を掲載しました。部分的には新聞等でも發表されておりましたが、經まつたものとして準備の資料にしたいと思つたからです。縣統計課でも臨時國勢調査の準備を進めて居りますが、今回の調査は從來のものとは趣を異にし、戦時下の國民消費を調査の眼目として居るので、御参考になる点があらうと思ひます。

☆ 豫ねて募集中だつた統計思想普及映畫脚本は豫期以上の応募がありました。本月號に審査當選者を發表する筈でしたが、臨時國勢調査の打合せ等事務の都合により次號

昭和十四年五月十三日印刷  
 昭和十四年五月十五日發行  
 (隔月一回十五日發行)  
 一部金十圓  
 水戸市北三ノ丸茨城縣廳  
 茨城縣統計協會内  
 發行兼編輯 柴 印 刷 所  
 兼印刷人 郡 司 常 成  
 水戸市南三ノ丸一〇七ノ二  
 印刷所 柴 印 刷 所  
 水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内  
 發行所 茨城縣統計協會